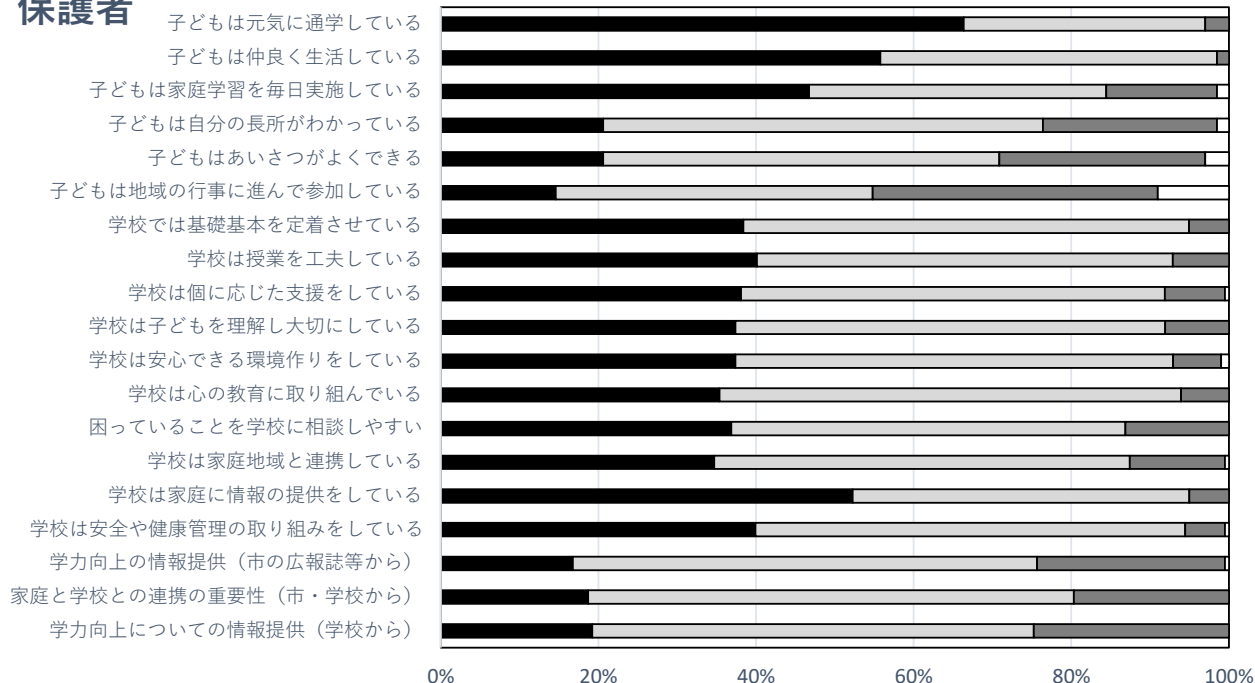


# 学校評価（令和2年度 第2回）

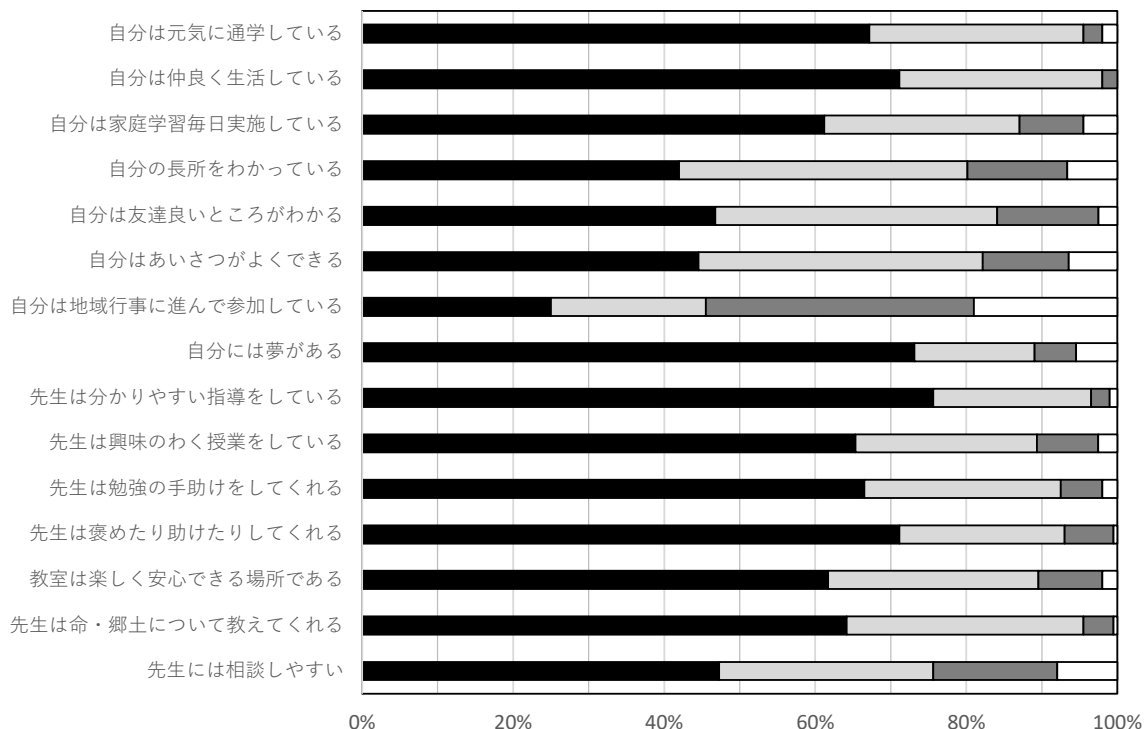
1月に実施した令和2年度第2回の保護者・児童からの学校評価と教員の自己評価についてお知らせします。集計の結果から、『そう思う』+『まあそう思う』を【成果】，『あまりそう思わない』+『そう思わない』を【課題】と捉え、記述しました。成果はさらに伸ばし、課題については、次年度改善してまいります。お忙しい中、学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。



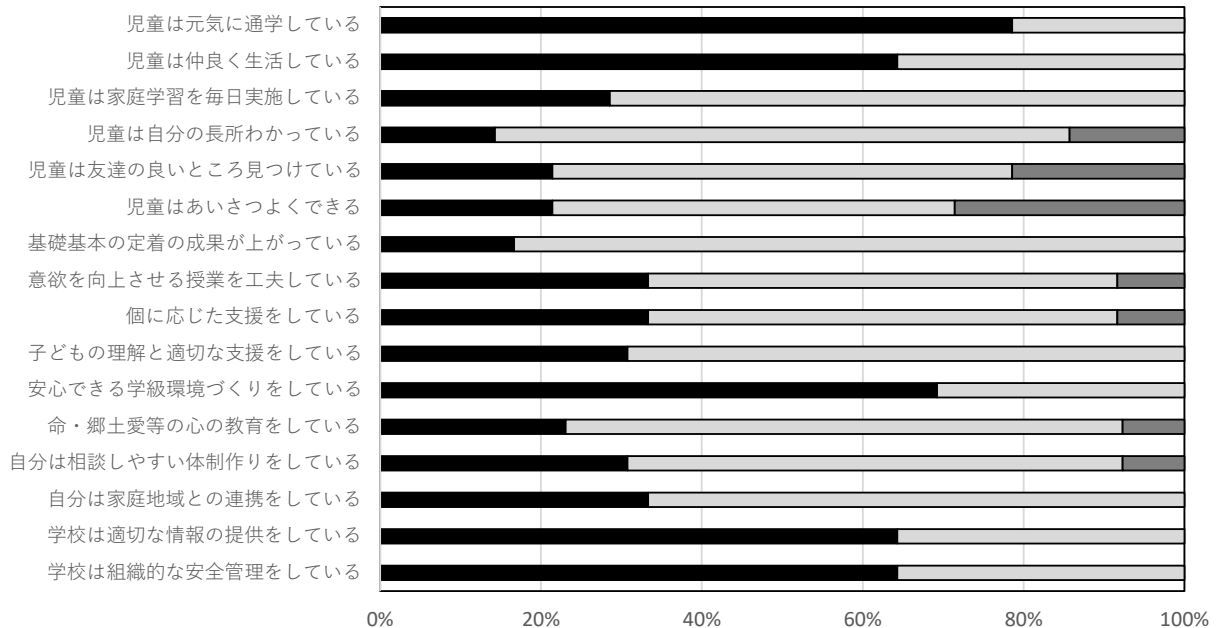
## 保護者



## 児童



## 教職員



回答に対し、「そう思う」「まあそう思う」を肯定的な意見、「あまりそう思わない」「そう思わない」を改善を要する意見としてとらえました。

### 【成果と課題】

○…成果 ●…課題

#### 1 学校生活全般について

- 1回目同様、保護者・児童・教職員とも、「元気に通学している」「命を大切にし、仲良く生活している」という答に対して、高い割合を示しています。
- 「毎日の家庭学習」については個人差が大きく、自主的に学んだり読書を通して心を育んだりする習慣を身に付けさせていきたいところです。
- 「自分のよさが分かっている」と「あいさつがよくできる」子に育つそうです。学校生活や家庭生活を通して、自尊心を高める声掛けを意識して取り組んでいきたいところです。

#### 2 分かる授業、楽しい授業について

- 「基礎・基本の定着」、「意欲を高める工夫」、「個に応じた支援」については、保護者・児童ともに肯定的で、高い割合を示しています。今後ICT機器等を活用しながら、学校全体として重視している「授業が楽しく分かりやすいと思える児童」がさらに増えるよう、授業の工夫改善に取り組んでまいります。
- 休校時や欠席等により学習が遅れている点については、学年末の復習期に個別に対応してまいります。

#### 3 子ども理解について

- 「一人一人を大切にしている」、「安心な学級環境」、「生命尊重・郷土愛」についても、保護者・児童ともに肯定的で、一定の評価をいただいております。
- しかし、児童間のトラブルやいじめの報告もあるため、日々の生活を通して道徳教育の充実を図り、「相手意識」をもてる高松っ子の育成を目指して、「いじめ0」に向けて取り組んでまいります。